

り、又變災なくば、人の財を借らざれば、借らば強く儉約を行ひ、常に心にかけてはやくかへすべし、疎にすべからず、人の財物を借りて返さざるは、至て不義なれば、我子孫かならず是を誠べし、此儀を能々まもるべし、また財多くば人に施すべし、吝嗇なれば仁義のみち行れず、不仁不義になるなり、夫れ身に奉ずる事薄きを儉約として、人に施す事薄きを吝嗇とす、儉約は善にして吝嗇は悪なり、これ天地懸隔ならずや、愚なる人は必此二つのものを辨へず、大様同事のやうにおもへり、

## 〔年山紀聞〕節儉

西山公○徳川常にのたまへらく、天下國家の主より士庶人にいたるまで、儉約を第一の徳とす、今や天下久しくをさまりて、人々おぼえず、去らずに、衣服馬鞍腰刀のがざり、もろくの器物食物家作りにおよぶまで、男女ともに奢侈におもむきたるゆゑに、その國用家費たらはず、是しかながら上たる人の心をもちひられず、たゞ榮花にのみならひくらし玉ふより、その風俗おのづから下にをよべり、あまさへへつらひの進獻に美をつくし、なほその執事近習の輩に至るまでも、をのく美物をあたへて、おひげの塵をはらふ、此風一たびおこなはれて後々は、天下の窮困となれり、いはんや土木ふとくをこのみ玉ふには、諸國の手つだひをかりたまふゆゑに、國主萬金をついやす、國主くるしむゆゑに、その士農工商をしえたげて、一國の困窮となれり、治平久しければ、いづれの世もこれなり、舜禹の徳をしたふまでこそあらざらめ、せめて漢の文帝の節儉にましませし時に、天下ゆたかに人々其所を得て、安堵のおもひをなせし時を、人主は目あてにして、身もちをつ、しむべき事なり、士庶人のせばき家の内とても、程々にしたがひて、儉約をまもれば、親類友だちをたすけやすく、子孫に藝術をしふるも、まどしからず、但し節儉と吝嗇とまぎるものなり、此あひだをよくくわきまふべし、吝嗇なれば、上たる人には、諸人なづかず、下たる